



たかひば

～ひばりのように高く舞い上がれ～



令和8年1月27日

10年に1度?のドカ雪

校長 山崎 勝則

1月24日（土）夜から25日（日）朝にかけて、かほく市は積雪60cm近いドカ雪にみまわれました。ニュースでは北陸各地で高速道の通行止めや鉄道の計画運休等が報道されていました。

学校は大丈夫か心配でしたが、かほく市の対応の早さに驚きました。日曜日のお昼には月曜日から通常通り学校を行うことを決定しメール配信。牛丼なら「早い、うまい、安い」ですが地域としては「早い、深い、大きい」って感じです。

自分は月曜から学校が通常通りという決定を受け、心配になり学校周辺を見回りに来ましたが学校周辺は雪だらけ、駐車場も車が入れない状況でした。しかし、夜に再度確認に来たところ駐車場や周辺の歩道はしっかり除雪されました。早い対応の裏には、大きな視点と深い配慮があるのです。これまで様々な学校に勤務しましたが、こんなに「早い、深い、大きい」を感じたのは初めてでした。

給食の無償化、体育館空調の完備、子ども達への見守りや温かい声かけ等、未来を担う子どもたちを大切にしてくれていることを改めて実感しました。この状況を当たり前だと思わず、感謝の心を持ち続けたいと思いました。



「10年に一度」の異常気象が多すぎるという疑問は、

気象庁の「早期天候情報」が過去30年の上位約10%の事象で発表されるため、実際には3~10年に1回程度の頻度で発生しうるのが理由です。地球温暖化やエルニーニョ現象などの要因が重なり、近年は特に記録的な高温や大雪が増えている。

(AIによる概要より)

給食より、授業?

連日、朝の雪透かしが続きましたが、昨年に引き続き高松小学校高学年の動きは早いです。除雪当番は決まっているのですが、登校して余裕のある6年生は真っ先にスコップをもって除雪してくれるのです。そんな折の一コマです。

校長：「学校で一番大事なのは給食なんだから、給食車の入る場所を真っ先に除雪しよう。」
児童：「校長先生、学校で一番大事なのは授業です！」

校長：「いやー、さっすがー、えらい！」

児童：「まあ授業といっても、体育だけなんですね。」

校長：「・・・」

こんな強く、優しく、楽しい6年生たちも、もうすぐ卒業だと思うと寂しいですね。

学校生活の全てが楽しいなんて難しいことだけど、苦手なことにもあきらめず、挑戦を楽しんでほしいものです。

